

「課題解決型図書館」をコンセプトとした『札幌市図書・情報館』の開設及びその運営

北海道 札幌市図書・情報館

基本データ

所在地	札幌市中央区北1条 西1丁目 札幌市民交流 プラザ
職員数	23人
うち司書数	17人
蔵書数	約 35,000冊
利用登録者数	7,315人
年間貸出冊数	貸出機能なし
(児童用図書貸出数 貸出機能なし)	

テーマ・活動のねらい等

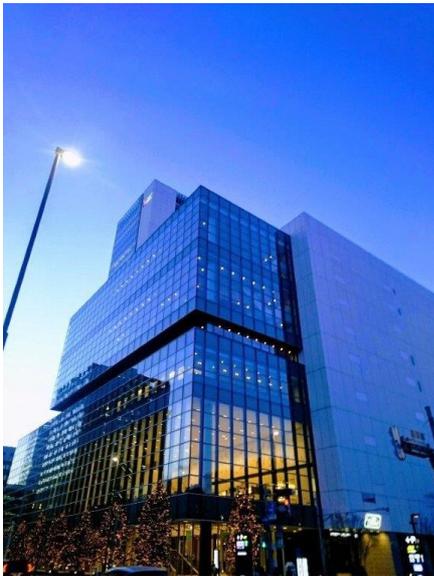
【テーマ】その他

【活動のねらい】

- 都心部の再開発事業により、2018年、札幌の多様な文化芸術活動の中心的な拠点として、多くの人が交流する場である複合施設「札幌市民交流プラザ」が整備されることとなった。
- かねてより札幌市中心部には、市民から図書館設置の要望が多かったこともあり、市民の創造的な活動や、仕事や暮らしに関する課題の解決などを支援するため、都心にふさわしく、これまでの札幌市の図書館とは異なる考え方で整備・運営する「札幌市図書・情報館」として、同プラザ内に整備したものを。

取組・活動の概要

- 「課題解決型図書館」として整備した札幌市図書・情報館では、次のような、従来の札幌市の図書館とは異なる取組を実施している。



市民交流プラザ外観（札幌市図書・情報館）

- 常に最新の情報を提供することを目指し、蔵書の貸出機能を廃した。（ただし、市内他の図書館の蔵書を貸出・返却可能なカウンターあり）
- 都心に集う人々をメインターゲットとしたこと、また、身近な悩み・課題の解決を支援するという観点から、館としての蔵書は仕事や暮らしに関する資料・情報提供にテーマを絞った。

- 具体的には Work（マーケット情報・起業等）、Life（医療・法律等）、Art（現代アート等）の大きく3分野に特化して棚を配置し、通常の図書館で多く所蔵される、小説・児童書のコーナーを設置しなかった。



書棚の例：仕事に役立つ Work コーナー

- 会話可能な空間や、座席の事前予約が可能な環境を提供し、都心の知的空間として、過ごしやすい雰囲気づくりを心がけた。



2階ワーキング席



2階グループ席

- 図書館の持つ調査相談機能や情報提供機能に関して、一般的な認知を高めるため、レファレンスにつながりやすい空間づくりや、経営等に関する無料相談窓口の周知を心がけた。
- 札幌を訪れる人が集まる、都心部にふさわしい場となるよう、札幌・北海道の魅力発信のための郷土資料の配架や展示を行うこととした。

取組・活動の工夫や特徴

- 都心で人が集まりやすい特性や、はたらく人が利用できる時間といった要素を加味して、他館よりも開館時間を延長するとともに、IC タグの導入など、蔵書点検の時間短縮、休館日の減少につなげている。
- 司書がそれぞれ担当の棚を持ち、横断的に協力しながら選書・棚づくりを行うことで、司書自身のやりがいの向上とともに、棚の質の向上を図っている。
- 書架は来館者が直感的に手に取りやすいよう、NDC 分類によらず、担当司書がテーマに沿って並べることで、定期的にお勧めの資料を面出しする「ハコニワ」、「知のかげら」といった取組を行っている。
- 最新の情報を提供するという意味での取り組みの一つとして、業界紙など 90 紙の新聞や、端末により閲覧が可能な 24 種のデータベースの提供、600 種にのぼる雑誌の配架などを行っている。
- サロンスペース (300 m²程度) を活用して定期的に仕事や暮らしに関するセミナー等イベントを実施するとともに、連動した蔵書展示を行うなど、来館者の活字資料への誘導につながるような工夫に努めている。

- 都心の知的空間としての雰囲気づくりにあたっては、篤志家の多大なるご寄附があり、これによるところが非常に大きい。
- これまでの改善内容としては、座席予約システム上の利用制限時間や席数の見直し、無料相談窓口を担っていただいている団体の増加などがある。

取組・活動の成果や今後の展望

【取組実施前後の変化・成果の把握等について】

- 上記 IC タグの導入及び返却台の利用により、貸出を行わずとも、読まれる資料の傾向の分析が可能となっている。
- また、札幌市内の全図書館同様、来館者アンケートを行っており、今後はそうした方法を通じてニーズ等の把握が可能と考えている。
- 2018 年 10 月以降、1 年を経過したが、来館者数は日に 3,000 人程度を維持しており、一般的には来館者にはご好評をいただいていると考えている。

【今後の展望等について】

- ここ 1 年は、ある意味で全てが初めての試みだったが、運営の平準化にあたっては、質の維持・向上を意識しながら、行っている取組の中から、優先すべき取組や管理替え・除籍等の考え方、連携に関するルールなどを整理していく必要がある。
- また、当館開設に先立って作られた、基本計画に掲げた各種専門機関や市民などとの連携は、発展途上にあることから、その質的な向上を図る取組が必要と考えている。
- 今後は、公共施設として持続可能な施設運営を実現するうえで、当館の魅力を創り、支える人材の育成や、最新の情報・資料の確保、都心の知的空間としての魅力の維持・向上など、当館を形作る様々な要素に対し、選択と集中により、限りある資源をいかに有効活用していくことができるかが重要な課題と認識している。